

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2772500761		
法人名	利楽心株式会社		
事業所名	グループホーム自由時館		
所在地	大阪府池田市鉢塚2-5-29		
自己評価作成日	平成25年3月29日	評価結果市町村受理日	平成25年8月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2772500761-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/27/index.php?action=kouhyou_detail_2012_022_kan=true&amp;JigyosyoCd=2772500761-00&amp;PrefCd=27&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 市民生活総合サポートセンター		
所在地	〒530-0041 大阪市北区天神橋2丁目4番17号 千代田第1ビル		
訪問調査日	平成25年6月17日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

自由時館では、公園や神社、スーパー、レストランが近くにあり、出来るだけホームに引きこもらずに外出できるように心がけています。町内会での盆踊り、秋祭り等のイベントで季節を感じていただくことや、ふれあいサロンでの地域のお年寄りとの交流を大切にしています。またお弁当作って出かけたり、近くの中学生在福祉体験に来られたり、こども100当番に参加しています。特に毎年恒例となっている利用者様、ご家族、職員での1泊2日の温泉旅行では利用者様とスタッフが力を合わせて宴会芸を披露することを、利用者様が楽しみにされています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当該ホームは、利用者や家族、地域と支え合いながら生活ができるよう、管理者が中心となりミーティングや申し送り時に意識しながら話し合い支援に繋がっています。利用者が重度化する中でもできる事を大切に考え、利用者に教えてもらいながら食事作りや掃除、花の水やりなどを行い、活躍でき楽しみを持って生活できるよう介護計画を立てて実践しています。年に1度の一泊旅行にもシャワーチェア等の介護用品を持参したり個別の車を準備する等、全員で参加できるよう企画を立て出掛けています。会議では業務改善や行事内容の意見や提案が活発に出され、時折社長が出席し共に考え迅速な対応がなされています。また、運営推進会議を通して地域との繋がりを深めたり、火災訓練には地域の方や消防団と共に行動中ホームの課題を一緒に考える機会となり、地域と共に取り組んでいます。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフ間の話し合いにより、「みんなの為にあなたがいる。あなたの為にみんながいる」と言うホーム独自の理念を作りスタッフ間で共有している	法人の利理念の基、職員間で助け合いの気持ちを大切に話し合い掲げられた理念があり、リビングに掲示しています。職員間だけではなく利用者や家族、地域との支え合いながら生活ができるよう、管理者が中心となりミーティングや申し送り時に意識をしながら支援に繋がっています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	自治会に入会し、月1回会館でのふれあいサロンに参加させていただいている。毎年町内会で行われる盆踊り、菖蒲祭、秋祭りなどにも参加させていただいている。	地域の高齢者の集うふれあいサロンに参加し手作りおやつでお茶を飲んだり、七夕飾りなどを楽しんでいます。中学生の職業体験を受け入れたり、小学校の運動会に招待があり、子ども達との交流の機会を作っています。また日常的にも挨拶を交わしたり、旅行の土産を届けるなど、自然に近隣の方と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイト養成研修受講済のスタッフがおり今後地域に向けての勉強会も考えていきたい。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1度運営推進会議を通して意見交換をさせていただいたり、地域との関わりの架け橋をさせていただいている。	会議は家族代表や町内会会長、地域福祉委員老人会会長等の参加を得て、隔月に開催しています。ホームの利用者や職員の状況、行事等の報告を行い、毎月「防災」や「楽しく仕事をするために」等のテーマを参加者で決めて、意見交換を行っています。参加者にホームの事を知ってもらったり、ホームで検討していることを一緒に考えてもらう機会となっています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議録を作成し毎回報告している。アドバイスを頂いたり、相談等も行い質の向上に取り組んでいる。	市のグループホーム担当者には、運営推進会議の議事録の提出や手続き、わからない事等があれば、直接市役所に行っています。役所からFAXで案内や注意喚起が届いたり、電話でもやり取りを行い、良好な関係を築いています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	施錠はしていない	身体拘束について外部研修を受けた職員がホームの会議で伝達したり、ホームのマニュアルを基に勉強会を行い、職員に周知しています。また、施錠はせずに利用者の外に行きたい希望があれば、できる限り思いにそえるように支援しています。行動を止めるような言葉かけ等は、職員同士が互いに注意し合っています。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	研修に参加し、職員にも社内研修を行っている		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修に参加し、職員にも社内研修を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	ゆっくりと時間をとっていただき、契約を行っている。不明な点などは、理解、納得がいくまで説明を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様、ご家族様とコミュニケーションを図り、意見や不満を言ってもらい、発言がしにくい場合もある為、意見箱を設置している。月に1度派遣相談員の訪問もある。	3か月毎にホームの新聞を発行しホームでの様子を知ってもらい、家族の面会時にゆっくりと話を聞き、意見や要望を聞いています。サービス担当者会議や意見箱の設置等も家族から意見を聞く機会としています。また、介護相談員を受け入れ、第三者が利用者の声を聞いています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の意見や提案を業務に反映させるように取り組んでいる。	月に1度の定例会議の際に、業務改善や行事内容の意見や提案が活発に出されています。会議には時折社長が出席し、共に考え迅速な対応がなされています。また、年に1回は個別面談を行ったり、誕生日には手紙交換をするなど、職員は社長と話す機会があり考えていることを伝えています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	お互いが刺激しあい、向上心を持って働けるような環境になるように努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	特定の職員だけでなく、色々なスタッフに研修を受ける機会を出来るだけつくるようにしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	3ヶ月に1度、池田市のグループホームの管理者、計画作成担当者、リーダーが集まり、意見交換や困難事例等の検討会などを行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	じっくりと時間をつくり、信頼関係を築き、本人が安心できるよう努力している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族のご要望に沿えるように努力している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人、ご家族、スタッフが話し合いながら、ご本人にとって何が一番必要なのかを話し合う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様とスタッフと言う関係ではあるが、家族同様お互いが支えあえる関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	スタッフも家族同様にご本人を支えていく関係を築きながら、ご家族様が気軽に訪問していただけるような環境をつくることを心掛け、ご家族にも協力していただく。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域の行事に参加することや、入所前からのお付き合いを出来る限り支援している	以前に趣味を一緒に楽しんでいた友人が訪ねて来られ、ホームでゆっくりと過ごしてもらったり、地域の盆踊り等の行事に出かけ知人に合うなど、馴染みの人との交流が持てるように支援しています。家に帰りたい方とドライブで自宅を見に行ったり、家族と法事に参加している利用者もいます。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	仲のよい利用者様が隣の席になるようにしたり、一緒に外出出来る機会をつくっている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご家族と連絡を取り、ご本人に面会に行く関係性を続けている		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人の思いや暮らし方の希望を聞き取り、ご意向に沿えるように努力しているが、出来ていないこともある	入居前に本人や家族に面接し、生活歴や家族歴等を主に情報を得て、暮らし方の希望や意向を聞いています。入居後は関わりの中で希望を聞いたり、表情や言葉を記録に残しカンファレンスで思いを汲み取れるよう話し合っています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時ご本人とご家族から情報収集を行い、入所後もご本人とご家族が話しやすい状況を作り時間をかけて情報を把握できるように努めている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	1日の過ごし方を記録して心身状態、出来ることをアセスメントし把握できるように努めている		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	計画作成にはご本人、ご家族、主治医、居室担当スタッフと管理者等が話し合い介護計画を作成している。ご本人とご家族様の要望や意向をよくお聞きしモニタリングをできるように努めている	利用者の思いや家族の意向を基に、利用者のこれまでの生活やできる事、わかる事などのアセスメントを行い、家族も参加する担当者会議を開催し、介護計画を立てています。必要に応じてかかりつけ医に相談することもあります。3か月毎に評価や再アセスメントを行い、会議を開催し介護計画を見直しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別に作成した介護記録で体調やケアの実践の情報を共有し、状況に応じて介護計画を見直している		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	以前は系列の介護タクシーの利用があったが、現在は無い		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	市民会館の催物への参加や地域の季節の行事への参加を積極的に行えるように支援している		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	在宅医療の訪問診療があるが、ご本人とご家族の希望に応じたかかりつけ医に訪問診療をお願いしている。	以前からのかかりつけ医を継続できることを説明し、往診に来てもらっている方もいます。ホームの協力医は月に2回往診があり、24時間対応してもらえる体制が整えられています。受診結果は電話や来訪時に家族に連絡しています。また、必要時訪問歯科を受けています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	24時間対応してくれる訪問診療の医師や看護師と連携を取っている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院の医師、看護師、相談員との連携をとり、情報交換を行っている		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に話し合いの場をもっている。状態の変化にあったケアを行うために、状態に応じて医師も交えてご家族と話し合い、方針を共有している	入居時に医療が常時必要となればホームでの対応ができない事を伝えていますが、病状の変化や重度化する中で、利用者や家族の意向とホームで出来得る支援を考え、医師も含めて話し合いを重ね方針を共有しながら支援しています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修や定例会議において緊急時の手順や事故発生時の対応について徹底している		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の消防団の協力のもと火災訓練を行っている。ホーム独自で総合訓練と部分訓練を各1回の避難訓練を行っている。	年に2回地域の方や消防団も立会い、火災訓練を行っています。主に夜間を想定した避難誘導訓練を行い、振り返り課題を明確にしています。消火器や通報装置については、業者の点検の際に訓練も行っています。地域の防災訓練に職員が参加し、避難経路や状況の確認も行っています。運営推進会議でも話し合わせ、備蓄を増やすなどの取り組みに繋がっています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩ということを意識している	会議で接遇やプライバシーに関してマニュアルを用いた勉強会を行っています。敬語を基本としていますが、堅苦しくならないよう柔らかい言葉遣いに配慮しています。管理者だけではなく職員間で注意し合える関係を築いています。排泄時の声の大きさや言葉にも注意しています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人が選択できるように声かけには工夫をするように努力している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切にしているが、スタッフの人数の問題もあり、入浴時間等は限られた時間になることがある		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	ご本人のご希望で毛染めやマニキュアなどが出来るように支援したり、服装も相談に応じている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物、食事作り、片付けをその人の能力に合わせて一緒に行ってもらう	職員は利用者の食べたいものを聞きながら献立を考え、利用者と一緒に買い物に行っています。個々の利用者のできる事に携われるように配慮し、一緒に調理や食器拭き等の後片付けを行っています。ホームで採れた野菜やホームで漬けたぬか漬けが食卓に上がったり、おやつを手作しています。職員も食卓に着き一緒に食べながら食事時間を楽しんでいます。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	豆乳の提供やコーヒータイム、おやつ等で栄養バランス、水分量が確保できるようにしている。また水分量・食事が分かるように記録している		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、一人ひとりの状態にあわせて、口腔ケアスポンジ等を使用し口腔ケアを行う。ご自分で出来ない利用者様はスタッフが介助している		

グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表で排泄パターンを把握しトイレ誘導の時間を工夫して、おむつの使用を減らす工夫をしている	個々の利用者の排泄のリズムを排泄チェック表で把握し、その人に合わせた間隔やタイミングを観てトイレに誘導しています。退院時におむつを着けていた方が、徐々にトイレに行けるようになり、布の下着に変えた方もいます。申し送り等で職員間で検討し自立に向けた支援を心がけています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	適度な運動と水分補給を心がけている		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	スタッフの人数の都合で時間帯はある程度限られている。希望に合わせたシャンプーを使用している	日曜日以外入浴の準備を行い、週3回は入浴できるよう支援しています。入りたい時間を聞いたり、好みのシャンプーの使用、ゆず湯や菖蒲湯等の季節湯を行い、入浴を楽しんでいます。拒否される方には時間を変えて入浴したり、重度の方には訪問入浴を受けることもあり、個々に合った支援をしています。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調にあわせてお昼ね等をして過ごしていただく。居室の温度、湿度を調整し安眠につながる様に工夫している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬一覧表によりいつでも確認できるようになっている。薬の変更や追加等があった場合には申し送りを徹底し、症状の変化を記録している		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりにあった趣味や好みを理解し、生活の中に取り入れる事により楽しみながら過ごせるように支援している		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ご希望時買い物や外食等に出かけられるよう外出の支援に努めている。ご家族と協力しながら外出できるように支援している	毎日散歩や買い物に出かけたり、花の水やり等で外に出ています。時にはガレージにテーブルを置き、おやつを食べたり外食も楽しんでいます。年に1度法人内の他施設と合同で重度の方も一緒に、シャワーチェア等の介護用品を持参し、一泊旅行に出かけています。	



グループホーム自由時館

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	ご家族からのお小遣いをご自分で管理され、買い物時にご自分でお支払いをされる方もおられる		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人の希望があるときに電話をかけたり、手紙を出したりする事が出来るように支援している		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	混乱しないように大幅な配置変更はしない、共用空間の温度管理や明るさ、テレビの音量にも配慮している	リビングに生花を飾ったり季節の貼り絵、大きなカレンダーを掛け、季節を感じられるようにしています。毎日利用者と一緒に掃除し、温湿度管理にも配慮し居心地良く過ごせるよう支援しています。個々の身体機能に合わせて椅子を選んだり、柱やトイレの壁などにクッションを設置し、昇降機が備え付けられ、安全に移動できるようにしています。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	スペースの問題もあり、居室以外では一人になれる場所がないが、ソファの座る位置などお気に入りの場所がある		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご本人の家具や好みの物を居室に置いて居心地よく過ごせるように配慮している	入居時に使い慣れた物や思いでの物を持って来てもらうように伝え、テレビや棚、ソファ等を持ち込み、家族と配置を考え居心地良く過ごせるようにしています。写真やぬいぐるみ、家族のスポーツのトロフィ等を飾り、その人らしい居室作りをしています。また、希望や生活状況から絨毯を敷き、布団で休むことも可能です。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手伝いすぎないようにスタッフ同士が声をかけ合いながら、本人の力を引き出せるように配慮している		